

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 細木繁郎 氏

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元新日本製鐵(株)副社長 細木繁郎氏は、平成22年1月6日、ご逝去されました。享年88歳。ご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和19年9月東京帝国大学 第一工学部機械工学科卒業後、直ちに日本製鐵(株)に入社、昭和25年日鐵解体により富士製鐵(株)発足後、33年広畑製鐵所 製鋼部熱延課長、37年本社生産管理部 製鋼管理課長、40年広畑製鐵所 冷延部長、42年名古屋製鐵所 技術管理部長、45年新日本製鐵(株)発足後、46年本社研究開発本部 技術開発部長の職を歴任されました。さらに昭和50年取締役役に昇任後、56年常務取締役 大分製鐵所長、58年専務取締役 技術本部長、60年取締役副社長 中央研究本部長、62年常任顧問、平成1年から5年まで顧問の各要職を歴任されました。

氏は、昭和28年に米国から技術導入を図り建設された我が国初の4フィート広幅の連続式冷間圧延機による生産を極めて短期間に軌道に乗せられました。またその後も冷延鋼板工場の能力増強や熱延工場の新設において導入技術の定着と、これに独創的な改善を加えるなど、常に工場操業の第一線にあって近代的鋼板製造技術の確立に携り、今日の我が国の熱延鋼板製造技術の礎を築かれました。

昭和46年に研究開発本部技術開発部長に就任し、さらに昭和60年からは中央研究本部長としてそれらの任にあられた氏は、研究開発の効率化の編成および強化充実のため、基礎研究、製品研究、および設備開発機能を併せ持つ製造研究の三分野に整理統合すると共に、研究開発の計画的推進体制の整備に努め、その基本的骨格を確立されました。さらに当面の事業ニーズに留まることなく斬新なプロセス研究の芽を醸成するため、また需要家からの鋼材特性に対する高度化要請に対応するため、組織再編成・拡充を実現し、研究効率を格段に高める業績を挙げられました。さらに事業の多角化の戦略に則り、無機材料および非鉄・超合金などの新素材分野及び化学分野の研究体制の拡充を実現され、総合素材産業としての鉄鋼業の在り方に先鞭をつけられました。

この間、昭和56年からの2年間、氏は大分製鐵所長として低経済成長下での製鐵所運営として、コスト競争力を持った製造体制の整備・体質強化に向けての施策を積極的に推進されました。中でも製鋼と圧延工程の直結製造システムを安定的に定着させ、時代の要請に的確に応えるべく省エネルギー製鐵所の基礎を構築されました。加えて、諸外国との技術協力も強力に推進し、とりわけ上海宝山製鐵所プロジェクトにおける研修生受入での教育成果は、中国関係者から高い評価を受けています。

氏は数多くの要職を歴任されて来た中で、需要家の要望に応える鋼材品質の作り込みが鉄鋼の生きる道と言う信念を持っておられました。氏の古武士のような端然さ、慈父のような深い温かみを感じさせる人柄、広く分け隔てなくよく話を聴き簡潔・的確に結論を導き実行される行動力、時には大学の協力も得ながら対応する幅広い包容力に、社内外から絶大な信頼が寄せられ、需要家と一体となつての成品品質の向上さらには産業技術全般の進歩発展に多くの成果を挙げられると共に、幾多の後輩の指導・育成に尽力されました。

氏は長年にわたって本会理事、評議員、共同研究会幹事長、(社)日本鉄鋼連盟 鉄鋼技術政策委員会副委員長、(財)金属系材料研究開発センター理事長などのほか、政府関係委員会委員などの公職、数多くの団体の要職を歴任し、鉄鋼技術分野に留まらず、広く我が国の科学技術振興にもその深い学識と豊富な経験によって多大の貢献をされました。氏のこれらの業績に対して、本会より渡辺義介賞、製鉄功労賞が授与されると共に、名誉会員に推挙され、さらに藍綬褒章を受章されました。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績を偲び、会員一同、心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成22年3月

日本鉄鋼協会 会長 友野 宏